



第一礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師

プレイズリード: 郭永東牧師

前奏
頌栄 540 会衆
主の祈り 会衆

プレイズ 「御腕に抱いて」
「栄光イエスにあれ」 会衆

聖書朗読 サムエル記上 21: 1~16
(旧約聖書 p463) 司会

祈禱 美 新生 363 会衆
賛美 会衆

メッセージ 「より崇高なものへ」 牧師
祈禱 牧師
賛美 会衆

献金 270 会衆

報告
頌栄 新生 672b 会衆
祈禱 牧師



第二礼拝次第

メッセージ: 郭永東牧師

司会: 渡真利彦文牧師

聖書: マタイ 20: 1~16 (新約聖書 p38)

メッセージ: 「神様の目的」

プレイズ: 「主イエス様はぶどうの木」
「御手の中で」

賛美: 新生 586 新生 544



ファミリー礼拝

聖書: マルコ 6: 30~44

メッセージ: 「五つのパンと二匹の魚」

<巻頭言>

「大胆に祈る」

牧師 渡真利彦文

旧約聖書の歴代誌上を開くと、1章から9章にかけてアダムから始まるユダヤ民族の家系が綴られています。読むのに忍耐がいる箇所です。その4章9-10節に突然、次のようにみ言葉が目飛び込んできます。

「ヤベツは兄弟たちの中で最も尊敬されていた。母は、『わたしは苦しんで生んだから』と言って、彼の名をヤベツと呼んだ。またヤベツがイスラエルの神に、『どうかわたしを祝福して、わたしの領土を広げ、御手がわたしと共にあって災いからわたしを守り、苦しみを遠ざけてください』と祈ると、神はこの求めを聞き入れられた」

これがヤベツの祈りです。

このヤベツという名前はヘブル語で「苦しみ」という意味を持っています。ヘブル語は面白い言葉で、物事をそのままに表現します。つけ足すのではなく、また差し引くのでもなくありのままを伝えます。そしてユダヤ人が子どもに命名する時、その子の気質と運命を願うこととなります。ヤベツは幼い頃から「苦しみ」というレッテルを持ち歩まなければなりません。それは重荷を背負うような人生となりました。

しかし、ヤベツはノックダウンするような中でもノックアウトされることはなかったのです。神に、自分を祝福してくださいと祈り続けたのでした。神はヤベツの祈りを聞かれました。

受験であれ、進路であれ、結婚であれ、就職であれ、それらは祈りによって神から与えられた可能性を拓く機会となるのです。